

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	15-101	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p style="text-align: center;">Increased prevalence of atrial fibrillation after the Great East Japan Earthquake: Results from the Fukushima Health Management Survey.</p> <p style="text-align: center;">東日本大震災後の心房細動の増加 : the Fukushima Health Management Survey の結果より</p>		
<b>執筆者</b>		
Suzuki H, Ohira T, Takeishi Y, Hosoya M, Yasumura S, Satoh H, Kawasaki Y, et al.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Cardiol. 2015 Nov 1;198:102-5. doi: 10.1016/j.ijcard.2015.06.151.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
心房細動、地震、アルコール、肥満		26163270
<b>要 旨</b>		
<b>目的 :</b>		
<p>東日本大震災後、非代償性心不全による入院が増加したことを我々は報告したが、心房細動 (AF) と震災との関連は知られていない。本研究では、震災後の AF 有病率の変化および AF 発症と危険因子との関連を明らかにすることを目的とした。</p>		
<b>方法 :</b>		
<p>対象者は福島県避難区域在住の 40,223 名 (40-90 歳) のうち、2008-2010 年に心エコー検査 (ECG) を受診した 26,163 名とした。解析対象者は、2011-2013 年に追跡した 12,410 名 (男 5,704 名、女 6,706 名) であった。喫煙、アルコール摂取量に関する聞き取り調査、身体計測、血液検査、血圧測定を実施した。AF は ECG の P 波消失および心室応答異常により診断した。Cox 比例ハザードモデルにより AF 発症に対する危険因子のハザード比 (HR) および 95% 信頼区間 (95% CI) を算出した。</p>		
<b>結果 :</b>		
<p>震災後、AF の有病率は有意に増加した (前 1.9% vs 後 2.4%、<math>P &lt; 0.001</math>)。性別、年齢別ですべての群で有意に増加した (男 : 前 2.9% vs 後 3.8%、女 : 前 1.0% vs 後 1.2%) (40-69 歳 : 前 1.0% vs 後 1.2%、70-90 歳 : 前 3.0% vs 後 3.9%)。追跡期間中 (平均 1.4 年)、79 名 (4.5/1000 人年) が AF を発症した。AF の危険因子である年齢、男性、過度の飲酒 (エタノール 44g/日以上)、肥満 (BMI25 以上) の AF 発症 HR (95% CI) は、それぞれ 1.11 (1.07-1.14)、3.77 (2.17-6.53)、3.07 (1.55-6.08)、1.87 (1.19-2.94) であった。</p>		
<b>結論 :</b>		
<p>震災後 AF 患者は有意に増加した。AF の危険因子は性年齢に加え、過度の飲酒、肥満であった。震災後の避難者へのメンタルケアと生活支援の重要性が明らかとなった。</p>		